

| | | | |
|-------------------------|--|---------|--|
| 1. 科目名 (単位数) | 保育・教職実践演習 (2 単位) | 3. 科目番号 | JNPR2403 |
| 2. 授業担当教員 | 八重樫 幸雄・鈴木 美子 | | |
| 4. 授業形態 | 講義、演習、発表 | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 該当する教員免許状、保育士資格の希望者を受講対象者として、履修カルテを使用した授業を実施することから、履修できる学生は、幼稚園教諭、保育士の資格課程登録者のみとする。 | | |
| 7. 講義概要 | 保育・教育実習での体験や、履修科目で学んだことを振り返り、自己課題を見出して、問題を解決する力を養う。そして、こども理解や学級経営、子育て支援やインクルーシブ保育等の演習をとおして学びを深めるようにする。これらを踏まえて使命感や責任感、教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する保育者を目指す。 | | |
| 8. 学習目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者に求められる資質（職務への使命感や責任感、乳幼児に対する愛情）を理解し、実際の行動に移すことができるようになる。 2. 乳幼児期にふさわしい保育内容・保育方法等に関する理解を深め、実践的指導力を高める。 3. 組織の一員としての自覚をもち、社会性や対人関係能力を身につける。 4. 乳幼児理解や学級経営等に関する基礎的な能力を身につける。 | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートへ、15回の授業の授業毎の内容と自分の学びをまとめる。授業の終盤にこれらをじっくりと振り返り、自分の学びと課題について、とらえを深める。 ・必要に応じて出された課題に取り組み、期日までに提出する。 ・レポート課題：本科目を含め、大学での学びをとおして、自分がどのように変容したか、そして自分の目指す保育観、保育者観について具体的にし、今後の課題を明らかにしてまとめる。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】必要に応じて資料を配付する。</p> <p>【参考書】幼稚園教育要領解説、保育所指針、幼保連携型こども園教育・保育要領（フレーベル館）その他、必要に応じて随時紹介する。</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者に求められる資質（職務への使命感・責任感、乳幼児に対する愛情）を理解し、説明することができるか。また、実際に行動に移そうとする姿勢が見られるか。 2. 乳幼児期にふさわしい保育内容・保育方法等に関する理解を深め、実践的指導力を身に付けているか。 3. 保育者として、社会性や対人関係に関する基礎的な能力を身に付けているか。 4. 乳幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付けているか。 <p>○評定の方法</p> <p>[授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加 総合点の30% 2 日常の学習状況 総合点の30% 3 課題レポート 総合点の40% <p>本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の修得の条件であることに配慮する。</p> | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | <p>主体的・積極的な姿勢で授業に取り組み、自ら学ぶようにしましょう。実習の体験を踏まえ、反省点を明確にし、他の発表を聞いて「自分だったらこうする」という向上心をもてるようにしましょう。近年では、子どもやその保護者、そして保育者をめぐる社会情勢が目まぐるしく変化しています。保育者として子どもを取り巻く様々な問題や課題に真摯に向き合う姿勢をもち、保育の実践の場で出会う今日的な課題から社会的な背景を読み取って、子どもとその生活の場である園と家庭を総合的にとらえながら取り組む力を培ってください。</p> <p>遅刻・早退については厳しく減点します。正当な欠席の場合であっても、書面によって理由を教員へ報告してください。</p> | | |
| 13. オフィスアワー | 第1回の時に知らせる。 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | 実践演習の位置づけと制度 これまでの学修の振り返り | 事前学習 | 「履修カルテ」を読み返し、必要内容を記入してどのような学びを重ねてきたかを確認する。 |
| | | 事後学習 | これまでの学修を振り返り、保育・教職実践演習の授業の自己課題を明らかにする。 |
| 第2回 | 保育・教育職の使命感と責任感、教育的愛情および倫理観 実践事例をとおして子ども一人一人の内面を考える | 事前学習 | 資料を読み、使命感と責任感、教育的愛情および倫理観をまとめておく。 |
| | | 事後学習 | 一人一人の内面についてとらえ、まとめておく。 |
| 第3回 | 保育・教育職の使命感と責任感、教育的愛情および倫理観 子どもの内面理解をもとに、保育者の援助について考える | 事前学習 | 自分の意見を発表できるようにまとめておく |
| | | 事後学習 | 教育的愛情をもち、使命感、倫理観、平等感をもって保育を行うこととは具体的にはどのようなことかをまとめる。 |
| 第4回 | 保育実践法の検討 5歳児6月を取り上げて | 事前学習 | 5歳児6月の幼児の生活する姿、ねらい・内容・環境・指導上の留意点について題材に関係するところをとらえておく。 |
| | | 事後学習 | 保育実践例とその根拠について月案から洗い出す。 |
| 第5回 | 保育実践法の検討 | 事前学習 | 月案をもとにワークシートに考えを記入し話し合いが |

| | | | |
|------|--|------|---|
| | 3歳児1・2月の実践を考える | | できるようにする。 |
| | | 事後学習 | さまざまな意見から自分の学びを再構築させる。 |
| 第6回 | 調べ学習① グループ分けと役割分担、調べ学習の目的、進め方について・ | 事前学習 | 保育における今後の課題について考えておく。 |
| | | 事後学習 | グループごとの報告書と計画書の作成・提出、グループのテーマに関する資料を読み、内容を把握する。 |
| 第7回 | 調べ学習② 発表項目や内容を理解し、具体的な進め方を話し合う | 事前学習 | グループで進める内容を把握し、自分の役割を具体化して行なえるような態勢をつくっておく。 |
| | | 事後学習 | 進捗状況を確認し報告書を提出する |
| 第8回 | 調べ学習③ 各グループの内容を進める | 事前学習 | グループの進捗状況を理解し、自分の役割を考えて行えるような態勢をつくっておく。 |
| | | 事後学習 | 進捗状況を確認し報告書を提出する。 |
| 第9回 | 調べ学習④ 最終チェックとリハーサル | 事前学習 | 発表時の進め方を確認し、自分の役割について行えるように練習等十分にしておく。 |
| | | 事後学習 | 進捗状況を確認し報告書を提出する、発表データの提出。 |
| 第10回 | 調べ学習⑤ 各グループの発表をとおして学び合う | 事前学習 | 発表資料を読んで、自分の意見をまとめておく。 |
| | | 事後学習 | 全発表をとおして学んだことを振り返りシートにまとめる。 |
| 第11回 | 安全管理、危機管理を踏まえた保育 | 事前学習 | 今までに学んだ、安全管理、危機管理に関連する教科書や資料などから大切なポイントをまとめておく。 |
| | | 事後学習 | 事前学習を整理してまとめ、演習をとおして新たに気づいて、自分で意識しなければならないと認識したことをまとめる。 |
| 第12回 | 特別支援教育の実際 ムーブメント教育の演習（多目的室） —保育に活かす教材研究の在り方— | 事前学習 | ムーブメント教育について調べておく。 |
| | | 事後学習 | 演習の実体験から、子どもにとっての適時性、適切性に応じた、教材研究のポイントをまとめる。 |
| 第13回 | 外部講師を招いて 幼稚園や保育所の一日と保育者の仕事、留意事項、学級担任の職務、職員間の連携 | 事前学習 | 幼稚園・保育所の一日の職務を挙げ、知りたいことを整理しておく。 |
| | | 事後学習 | 保育者の職務と職場の人間関係の在り方についてまとめる。 |
| 第14回 | 振り返りシートと履修カルテの下書きを発表し合って今後の課題の具体化を図る | 事前学習 | ・振り返りシートを読み返し、この科目で学んだことをまとめておく。 ・まとめの欄に1年次からの学修と自己課題について下書きし、これらを発表して学び合えるよう準備する。 |
| | | 事後学習 | 下書きを校正し、提出し指導を受ける。 |
| 第15回 | ・振り返りシートと履修カルテの提出 ・まとめのレポートを期日までに仕上げ提出する | 事前学習 | 振り返りシートとカルテを清書し、提出できるようにしておく。 |
| | | 事後学習 | 将来像を具体化し、レポートをまとめる。 |